



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第70号



双石山、清武町大久保付近より

第4回山の日 in 双石山 令和元年8月11日(日)

宮崎市山岳協会(6団体)による第4回山の日は双石山で行われた。松崎事務局長挨拶の後、参加者78名は加江田溪谷散策と登山グループに分かれて行動した。台風の影響であいにくの天候であったが、参加者全員それぞれのコースを無事踏破した。

三世代の初めての登山

今年の山の日、宮崎市山岳協会と共催で宮崎市加江田にある通称双石山509mに登った。この山は来年予定されている全国支部懇談会の記念山行になっている山である。朝方、小雨もあり心配しながら集合場所丸野駐車場に7時30分に着くと大勢の参加者が集まっていた。山の日についての話を聞き加江田溪谷散策と登山グループに分かれた。わが支部の登山者は14人、その中の5人は私の家族。小谷登山口に移動し登山開始。この道は何度も歩いたコースだが今回は様子が違った。私の好きな登山口は一変し、生い茂る木々は伐採され真っ白なサツマイナモリの姿も無さそうだ。

途中から磐窟神社に廻り登山の安全を祈り、天狗岩を仰ぎ針の耳を通過、空池コースから第二展望台へ。道々花を付けたイワタバコに元気付けられた。一息の休憩にお茶やお菓子の美味しかったこと、そこから避難小屋へ。ここまでは足取りも順調に孫二人「小4男、中1女」を先頭に歩いた。孫の軽い歩きに我が身の老いを確認、無事山頂。記念撮影、昼食をとり下山開始。下山は桧木山コースの長い急な下りで時々雨も降り足元不安な悪条件であった。先に進む孫たちから「大丈夫?」の声が

清家順子(13049)

聞こえる。予定の時間を大幅に超えてひょうたん淵に着いたにもかかわらず、待ってくださった皆様に美味しいスイカを頂き嬉しかった。家族登山は初めてで嬉しい幸せな一日だった。孫のリュックにはかわいい扇風機が入っていた事なども大切な一生の思い出になった。

【家族の感想】

清家一郎：疲れました。足を引っ張りました。次は鍛えてきます。

清家有希：親子3世代の登山ができてとても良い思い出になりました。双石山は憧れの山でいつか登ってみたいと思っていましたが、このような形で実現できたことを本当に嬉しく思います。標高509mですが岩場が多く、はしごやロープを使ったり、アップダウンの多い尾根やいくつもの展望のポイントなど山の魅力満載で満喫できました。ブヨなどの虫対策や雨の装備など考える良い機会になりました。有難うございました。

清家大誠(小4)：グループのみなさんが面白い話をしてくれたので楽しかった。気を付けるところを教えてくれて良かった。次は自分の荷物は自分で持とうと思う。途中、雨が降ったので、今度は晴れの日に行きたい。

清家 彩未(中1): 山の日に双石山の登山に参加させていただきました。今回の登山には家族3世代で参加し、いい思い出を作ることができました。私は普段山登りはしないのですが、今回の登山をすごく楽しみにしていました。登山する前に今回一緒に登山を行う山岳会のメンバーの方とお会いたした時は皆初対面で少し緊張していましたが、登山中にメンバーの方が私に優しく話しかけてくれたので自然と緊張もほぐれていきました。また、途中の休憩ではお菓子をいただき、汗びっしょりの私に冷却スプレーをかけていただくなど、とても気遣いをしてもらいました。そして頂上でお昼ご飯を食べました。いつも食べるおにぎりでも頂上で食べると一味美味しく感じました。

下山に入ると山道は狭くなり、足元に岩があったり、大きな木が倒れていたりしている場所がありました。少しでも危険な場所があったら「ここは滑るから近くの木などを持つと良いよ」などのアドバイスをしてくださったり、木にロープをかけてくださったりしました。足を痛めた方に対して、少しでも楽に歩けるように荷物を持ってあげたり、足への負担を減らすために自分の持っていたスト

ックを貸してあげたりしていました。その優しさを見て、私も人の役に立つような事を今度してみたいと思いました。メンバー全員で協力して無事下山することができて本当に良かったです。今回の登山は猛暑でしたが、とても楽しかったです。



<参加者14名> 清家順子・服部澄子・荒武八起・都甲豈好・日高研二・服部岩男・畑島良一・清家一郎・清家有希・清家大誠・清家彩未・高橋節代・米満美保・深田光生

山の日 加江田溪谷散策コース

溪谷のせせらぎと青葉の瑞々しい散策路

加江田溪谷を歩くのは久しぶりだった。丸野駐車場に着く頃に小雨が降り出し傘をさして受付をする。同時に「あとはお楽しみ」の番号札をもらった。今日のコースは私には日向ラインの呼び名に親しみが有る。道は昔のトロッコ道で加江田川に沿って椿山森林公園に続く。双石山への登山口が幾つかあり対岸には徳蘇山系への登山口がある。平坦で歩き易い。川にはひょうたん淵など深い緑色した淵がいくつか在って50～60年前には川に迫り出した大枝にロープを下げ、代わる代わる肝試しの様に男の子達が飛び込むのを見ることもあった。今大きな流木などで全体的に荒れた感じがした。

歩き始めて人家が途切れ、ゲートを過ぎると小さなロータリーのような広場がある。キバナノホトギスには時期が早いようだ。雨の降り続いた後なので双石山の尾根に繋がる大小の沢から勢いよく水が流れ下り心地よい。たっぷり水を含んだ岩壁にイワタバコが群れ咲いていて赤紫色の星型の花の中央に黄色のシベ、うつむいて美しい。

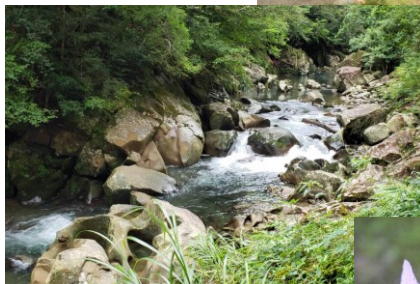
硫黄谷で休憩する。麻畑経由の双石山の登山口である。鬱蒼としたバナナの林の手前に昭和54年宮崎国体にご臨席の昭和天皇がこの溪谷を歩かれて「「蘇(こけ)むせる岩の谷間に生ひしげるあまたのシダは見つたのしも」の歌碑がある。多目的広場では腰を下ろし、しばし静かな森の息吹と一体化。家一郷橋を渡り平成登山口を少し過ぎたところから川沿いの

多田登美子(13781)

道は通行止めになっていて、山に入ったが昔あったという社も見当たらず引き返した。帰り道に硫黄谷の橋の川上の付け根辺りでかすかな硫黄の臭いを感じた。出発点近くのオニユズにはいつもの様に大きな実が付いていた。思い出と共に歩いた貴重な時間だった。受付でスイカをいただき、後日番号札が当たり、いい物が届く。



市山協事務局長の挨拶



加江田溪谷



イワタバコ

【8月定例山行】 横岳 1094m) 垂水市 (高隅山系)

8月17日 (土)

タフな山でした

高隅山系の南西に位置する横岳。今回は、大隅青少年自然の家キャンプ場の西側、16番(ハイキングコース目印)から登った。要所に目印の番号がある。後記のように登りと下りの時間の違いからも登りのきつさ(歳のせいかな?)が見て取れる。ほとんどが広葉樹の森の中を行く登山道でシイ、ツバキ、マテバシイ等と共に一部南限のブナも生えている。山頂からは西に錦江湾、東には高隅山系が確認できたが、かすんでいなければ屋久島、開聞岳等望めたはずである。下見の時は、万滝コースを降りたとの事であるが今回は登った登山道を折り返した。下見でそのタフさを実感した女性2人だったが、帰省中のお孫さんの御世話を中断してまで、その責任感から案内していただき、ただただ感謝、感服である。

前原満之(9878)

<参加者6名>

服部 澄子・橋口 三枝子・前原 満之・荒武 八起・武田 芳雄・畑島 良一

<コースタイム>

クロスモール清武6:05発-269号-田野IC-都城IC-都城市内-末吉財部IC-笠野原IC-220号-鹿屋市内-国立大隅青少年自然の家「キャンプ場」着8:30-キャンプ場発8:48-林道出合い10:52-縦走路着12:00(昼食)-縦走路発12:40-横岳山頂着13:25-横岳山頂発14:00-林道出合い15:15-キャンプ場着16:50-キャンプ場発17:20-220号-269号-東原IC-末吉財部IC-都城市内-都城IC-田野IC-269号-クロスモール清武19:50着

登り:4時間(昼食除く)下り:2時間50分



山頂の祠は、カヤに覆われ、最初わからなかった。ノコで刈ってみると傾斜した祠が現れた。



ミカエリソウはまだつぼみ。ツクシコウモリソウ(写真)はわずかに花をつけていた。



ロープが設置された急傾斜が多い。しかも粘土質の土は滑りやすく、ロープがあっても、登りも下りも苦勞する。



[9月定例山行] 四国・剣山(1955m) 9月14日(土)～15日(日)

豊かな植物群と平家伝説に彩られた信仰の山

多田周廣(13780)

わが国の山名で「駒」に次いで多いのは「剣」である。「剣」は立山の劔岳・木曽駒の宝剣岳など全ての山の形が剣のように屹立していることからきているが、この四国剣山だけは違う(深田久弥)。何故、四国の剣山は剣の形ではないのに「剣」と付いたのか、由来は頂上にある宝蔵石下に安徳天皇の御剣を埋めたと地元の円福寺に伝わっている。

メンバー16名、定刻7:35分発大阪伊丹行は50分近く遅れて出発。空港到着後、貸し切りバスで山陽道・明石海峡・淡路島・徳島自動車道・美馬インターより剣山登山口「見ノ越」へ。リフトで標高1710m西島リフト到着。剣山は標高1955m、九州最高峰宮の浦岳1935mより高い。頂上までは実に僅か245mの標高差が自力登山である。若い人には物足りないだろうが、年配者には魅力のある山であり子供連れの家族も多い。

この山は石灰岩地質で高山植物も多い。道中、リンドウ・アキノキリンソウ・トリカブト・ホソバガクビソウ・テンニンソウなど多種の花を見た。作家宮尾登美子の小説「天涯の花」で取り上げられた世界的な稀少植物キレンゲショウマなど平家の落人が世を忍び、身を隠すように暮らしたように、幾多の花々が人手に荒らされることなく数多く生育しているとのこと。美馬インターから見ノ越までのアプローチは長く、その道沿いに張り付くように建つ小さな家々は平家の落人の住まいであったと言われていたことから、なるほどと思われる風情である。

初日は剣山ヒュッテ、標高1920mに宿泊予定である。ヒュッテから頂上までは標高差35m。西島駅を16:00頃出発、17:00ヒュッテ着であったので、そのままリュックをヒュッテに預け頂上を目指した。

最後の標高差35mは急登かと思っていたが、階段を20段くらい登ると頂上までは見渡す限り平坦な笹の原っぱ。三ルートで木道が整備され、その交わる地点に一等三角点が鎮座しており、ほぼ360度の展望である。この原っぱで平家一族が馬上訓練したと伝えられる。晴天であればご来光と大阪や岡山の夜景、更には鳥取の大山まで見渡せるとのこと。初日は残念ながら霧でとざされた。

翌朝、晴天。全員が日頃の行いよし。朝食5:00、ご来光を拝み5:40再度頂上を目指す。クマササの原っぱに出ると満月が早曉の空に輝いている。東に日の出、西に満月。この場にいる幸運を感謝した。深田久弥は日本百名山の中で「その広々した原は昼寝を誘われるようなのんびりした気持ちのいい所であった」と書いている。私と末永さんは頂上止まり。支部長以下14名は更に次郎岬(じろうぎゅ

う、岬とは修験者が仏具・衣服等を入れた背に負う箱)を目指す。80代半ばになられる福島さんもその中におられる。立派なものだ。帰りは西島駅で落ち合い下山。国道439号、祖谷のかずら橋を渡り(怖くて渡れなかった30年前を思い出した)、大歩危・小歩危を通過、徳島自動車道を走る。伊丹空港発、宮崎空港に20:50帰着した。チームワークの良い、思い出に残る良い旅であった。

〈参加者16名〉 拵恵子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・蔵屋とよ・日高恵子・日高キヨ子・荒武八起・都甲豈好・末永軍朗・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・畑島良一・川越政則・福島龍好

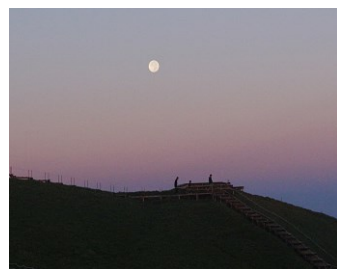
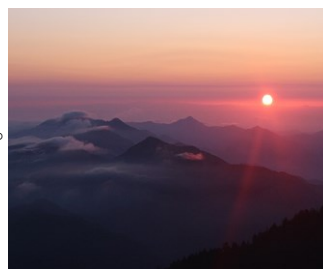
<行程>

14日:宮崎空港7:35～伊丹空港～神戸淡路鳴門自動車道～徳島自動車道～美馬～見ノ越15:20～西島リフト駅15:45・・・剣山山頂ヒュッテ16:35、山頂散策

15日:剣山山頂ヒュッテ5:25・・・次郎岬鞍部往復・・・西島リフト駅8:15～見ノ越～剣神社～祖谷吊り橋10:50/12:00～伊丹空港17:30/19:55～宮崎空港21:00



頂上ヒュッテ到着後、山頂へ



日の出と満月



朝陽を浴びて次郎岬へ

【自然保護委員会】 「森づくり活動」 田野の森育林作業 7月7日(日)

前原満之(9878)

昨年7月予定していた田野の森育林作業は、大雨のため林道が陥没し、現地に行けないことで中止した。田野の森としての育林作業は昨年2月以来である。



今回も、今まで手入れてこなかった駐車スペース手前の草刈り。藪のところが多く、結構大変である。



今回は、スイカでなくメロンで休憩し、疲れを癒す。作業後、用のあった一名を除き、青井岳温泉で汗を流した。



刈った後の斜面はご覧の通り、見事にきれいさっぱりとなった。平均年齢73歳のご苦労に感謝感謝である。



〈参加者6名〉 橋口 三枝子・前原 満之・末永 軍郎・武田 芳雄・多田 周廣・四宮 林三

「自然保護全国集会」

令和元年度自然保護全国集会は、7月6日～7日埼玉県さいたま市で行われたが、当支部は参加しなかった。メインテーマは「生物多様性と自然保護」である。1日目、基調講演のあと、分科会は①生物多様性と自然保護の関わり②絶滅危惧種の保護活動③山の自然を守るためにできることで行われた。2日目は分科会報告、支部報告等の後、北本自然観察公園での植物観察会が催された。なお、当支部は欠席したが、事前に求められた各支部報告を提出し、自然保護委員会の広報誌「木の芽草の芽」に掲載されたところである。内容としては①森づくり活動②宮崎自然休養林の登山道③森林保全巡視員④清掃登山の4項目を報告した。

「小谷登山道に植栽を」

双石山登山口周辺の約4haの杉林が伐採された。その跡地の利用について宮崎市山岳協会(6団体)は、事務局長・松崎氏を中心としたメンバーで森林管理署と折衝している。進捗状況を要約すると4haのうち0.8haは分収造林区域(収益を目的とした造林)から除外するので、その範囲を利用して自然木を植栽してはと提案を受けている。我が支部を含めた6団体で0.8haに植栽し、それを管理するのは簡単な事ではない。しかし、自分達が植えたモミジ・山桜・やぶ椿などで登山道周辺が彩られ、老いて山歩きが出来なくなっても登山道周辺散策だけは楽しめ、また子や孫に自然の美しさを伝授できるなど想像すると夢が膨らむ。格好つけて言うところの山に登る多くの人が感動する、より公益性の高い事業ではないかと考える。

皆様、マイツリーを育ててみませんか。(文責: 荒武)

麗山会設立15周年記念山行 ジョージア・トレッキング

経 過

設立当初で済州島ハンラ山、10周年でベトナム・ファンシーパン、そして15周年でコーカサス地方のジョージアを催行した。9月総会から記念事業として多くの案が出ていたが、ジョージア案が浮上。その頃、NHKで「天国に一番近い教会」そして山岳景観と草原に咲く花々や独特な文化が放映された。興味深い国であった。国の位置や風土、コーカサス山脈と多くの歴史的構造物や遺産など不理解であった。

事前調整

誰も未知なる国への旅には不安があった。コーカサス山脈への憧れはあり、登山は無理にしても概要を確認するトレッキングと風土に浸る旅で具体化を進めた。ジョージアに詳しい旅行業者を選定し、伝手で取得した資料で固まってきた。中東「カタール・ドーハ」を経由するアプローチのため交通手段確保と早急な事務手続きが必要であった。詳細な準備はそれから始まった。

コース概要

成田からカタール・ドーハ、ジョージア首都トビリシへ、ツカルツボ・メスティア・ウシュグリを巡る行程は帰国まで6月30日～7月11日の12日間の旅。各都市で教会群や旧跡、氷河や花が咲き乱れる尾根や草原トレッキング、雪に覆われたウシュバ・シハラ山の荒々しい山肌を満喫した。

国 情

欧州・中東・アジア・ロシア・黒海に囲まれ、近代でもロシアに領土を侵略されるなど悩みを持つ。独自の言語を持ち、北のコーカサス山脈・黒海・トルコ・アルメニア・アゼルバイジャンと国境が接する。親日で「栃ノ心」が相撲で活躍している。首都トビリシは歴史的構造物と芸術的建築物が点在し、プラタナスの大樹があり、アパート等建築物はソ連時代を思わせる。東部はブドウ栽培が盛んで「ジョージア産ワイン」は世界最古のワインと言われており美味である。犬・牛が多く路上にも寝ている。主要都市以外では馬・豚も路上で草等を食んでいる。車両の7割ほどは日本車であった。

<参加者8名> 日本山岳会 麗山会会員

畑島良一(13900)



後方にシハラ山 シハラ氷河入口

地球の大地を感じたアフリカ大陸 8月27日-9月8日

久峯 慧子(12563)

5回目のアフリカ大陸への旅。エジプト（ピラミッドとナイル川を下る）、タンザニア（キリマンジャロ登山）ケニア（ケニア山登山）、モロッコ（街に響き渡るコーランを聞く）。今回は南部のナミビア、南アフリカ共和国、ジンバブエの三カ国を訪れた。エチオピアのアジスアベバ空港を経由して、ナミビアの首都ウイントフックへ到着（時差7時間）。着後すぐにバスに乗り換えて砂漠の入り口の街ソスフレイへ向かう。ナミビア西部に位置する約5万km²に及ぶ赤い砂のナミビア砂漠、世界で最古の砂漠ともいわれているが、そこにはいくつもの感動的な光景が広がっていた。翌日の早朝砂漠の登山口へ。素足で足を踏み入ると、さらさらと流れるような砂に足がのめりこむ。前を歩く人が踏みしめた深い砂の穴に足を運ぶ。一步一步両手をついたりしながら710mの峠に立つ。なだらかな斜面が生き物のように波線を描いて広がり、太陽の光と影に彩られながら刻々と姿を変えていく。次に赤い砂丘に囲まれ、立ち枯れた木々が白い大地（湖が乾燥して塩になった）に突き刺さるデッドフレイ（死湖）。足を止めると、まるですべての生き物が姿を消し、時間が止まったような感覚だった。

翌日、フン族（ブッシュマンの末裔）と共にカラハリ砂漠をウォーキング。乾燥した大地で狩猟民族として暮らす秘訣を教わる。歩いているといつも遅くなる私を、20歳くらいの若者が気遣って振り返り、ニコニコと手を差し伸べてくれる。「優しい孫みたい」と細く長い指を握り返す。うれしくなる。砂漠では二千年以上も生き続けるという巨大植物ベエルビツチもたくさん見られた。

7日目に、バスで国境を越えて南アフリカのナマクワランドへ向かう。7月の終わりから9月にかけて雨がこの荒野を潤した後のほんのわずかな3週間くらいだけ、辺り一面花のじゅうたんとなる。オレンジ、黄色、赤、紫、ピンク等々野生の花が咲き乱れる。まさにこの世の楽園。今の争いの多い世界が嘘のように思われる。翌日もう一つの花園ウエストコースト国立公園をハイキングしてケープタウンへ向かう。

10日目喜望峰ハイキング。幼いころから夢見ていたこの地に立てた喜び。インド洋と大西洋からの突風に吹き飛ばされそうになりながら広い海原をいつまでも見ていた。11日目に飛行機でジンバブエに入国し、世界三大瀑布のビクトリアの滝に向かう。周辺をハイキング、瀑布に大きな虹がかかっていた。

「アパルトヘイトの国」としてしか知らなかった南アフリカ「百聞は一見に如かず」だった。人種差別、植民地支配という過去を乗り越えてたくましく生きるアフリカ大陸の人々。2週間だけの旅人には解らない、いくつもの困難を抱え、その国々、土地々、人々が、それぞれの場所で今もたくましく生きている。そしてそれらを皆包み込みながら「時」は流れていくのだと哀しいほどに感じた旅だった。

- 〈喜望峰〉学びて知りし幾十年喜寿にて立てり猛き海原
- 夕日とはかくも偉大な魔術師か広き砂漠を赤き布に染む
- ジンバブエの若きホテルのオアマンに「こんちはです」笑みで迎へる



ナミビア砂漠



喜望峰



ビクトリアの滝

支部行事予定

[事務局だより]

月 別	行事名	期日	備考
10月	定例山行 遠見場山、ときめき家族登山	10.12(土)	延岡市
10月	定例山行 双石山、小屋泊	10.19(土)-20(日)	宮崎市
11月	定例山行 第35回宮崎ウエストン祭	11.3(日)-4(月)	高千穂町、4日は記念山行(祖母山)
11月	家裁委託登山 双石山	11.22(金)	宮崎市、22日雨天の場合は29日
12月	定例山行 朝陣野	12.7(土)	宮崎市
12月	定例山行 双石山・清掃登山	12.14(土)	宮崎市、夜は晩餐会

支部会務報告(7月-9月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備考
7.4	第244回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	20	
7.4	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	7	
7.21	7月定例山行 大幡山	小林市		台風で中止
8.8	第245回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	
8.8	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	7	
8.11	双石山と溪谷歩き(山の日関連行事)	宮崎市	18	宮崎市山岳協会と共催
8.17	8月定例山行 横岳	鹿児島県	6	
9.5	第246回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	21	
9.5	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	
9.6	宮崎市中央公民館まつり実行委員会	宮崎市中央公民館	2	
9.14-15	9月定例山行 剣山	徳島県	16	
9.20	第35回宮崎ウエストン祭事前協議	高千穂町役場	7	
9.25	少年委託登山事前打ち合わせ	宮崎家庭裁判所	2	
9.26	支部役員・委員長等会議	宮崎市民活動センター	9	ウエストン祭等打ち合わせ
9.28-29	支部合同会議	東京都	2	

グループ山行等(届け出分)

月 日	山座	場所	代表者	人数	日数	備考
6.30-7.11	シハラ山・トレッキング	ジョージア	畑島良一	8	12	麗山会
8.5	笠ヶ岳	岐阜県	武田芳雄	3	2	宮崎山友会
8.7	高妻山	長野県	武田芳雄	3	2	宮崎山友会
8.9	巻機山	新潟県	武田芳雄	26	1	宮崎山友会
8.1	八海山	新潟県	武田芳雄	27	1	宮崎山友会
8.11	米山	新潟県	武田芳雄	24	1	宮崎山友会
8.12	弥彦山	新潟県	武田芳雄	9	1	宮崎山友会
8.18	猪八重溪谷	北郷町	武田芳雄	9	2	宮崎山友会
9.23	大山	神奈川県	畑島良一	6	1	麗山会
9.29-30	南ア・仙丈岳	長野県/山梨県	畑島良一	3	2	麗山会

事務局からのお知らせ

1. グループ登山の届け出の厳守：グループで登山される時は事前に登山計画書を作成し事務局に提出して下さい。
2. 日本山岳会団体登山保険加入のご案内：山岳登山中の事故はもちろん、遭難捜索費用の補償、日常生活でのケガ、病気や介護、ガン等幅広い補償が受けられます。まずは事務局にご相談ください。

編集後記

台風、大雨など各地から多くの被害が報告されました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年度も会員の皆様の献身的なご支援により前期を無事経過しました。残る半期には、宮崎ウエストン祭、中央公民館まつり、家裁委託登山、諸塚山山開きなど多くの行事を控えております。また、来年5月に宮崎支部が担当する第36回全国支部懇談会の準備にも集中しなければなりません。皆様の一層のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。野山を歩くのに絶好の季節となりました。大いに楽しみましょう。(Y.A)

秋風は涼くなりぬ馬並めていざ野に行かな萩の花見に
(万葉集巻10-2103 詠み人知らず)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第70号

発行責任者：荒武 八起

編集委員：久峯 慧子(責任者)、拵 恵子、谷口 敏子、
多田 登美子

事務局：都甲 豈好

〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail: toko150@mizazaki-catv.ne.jp

口座：ゆうちょ銀行 記号17330-2 番号9336371

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部